



年頭あいさつ



連合鳥取
会長 山口 一樹



神崎神社(琴浦町)・宝珠を握る龍の彫刻

あけましておめでとうございませう。ご家族そろって良い年を迎えられたでしょうか。私たちが思い切り活動をしていけるのは、ご自身が健康であることはもちろん、ご家族・関係者が支えてくれるからこそであると思います。周りの人たちが全てが幸せでなければなりません。これまでのお支えに感謝するとともに、今後も連合の活動に引き続き取り組んでいただきませうようお願いいたします。

昨年、全国各地での風水害、県内では台風7号による被害が多く発生しました。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。にも早い復旧を祈念いたします。

新型コロナウイルス感染症には4年前から対策に苦労してきましたが、昨年5月に感染症法上の位置づけが5類に変更され、社会・経済は様々な状況を抱えながらもコロナ禍の先へと向かって動いていきます。

組合活動については、Webで開催できるものと、対面で実施することに意義があるものを判断し、小規模集会の開催・職場オクルグの細やかな実施・教宣物の配布の促進などにより、今まで以上に組合員と向き合うことが大事になってきます。

また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻やイスラエルによるハマス攻撃も多くの子どもを含む民間人が犠牲となり終わりが見えません。

軍事侵攻は国際平和に対する暴挙であり、最大の人権侵害であります。一日も早く停戦を求め、平和な日常が戻ることを願います。

さて、2023春闘は30年ぶりの高水準となりました。2024春闘では、この流れを止めずに、物価高騰で私たちの生活に直接追い打ちをかけていけないように、「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組みをさらに前進させなければなりません。

その他にもたくさん課題があります。「組織強化・拡大」「集団的労使関係の構築」「男女平等・ジェンダー平等の推進」「政策課題の実現」等の実現に向けて取り組んでいかなければなりません。

さて、国政は混沌としています。国民が苦しんでいる時に、またもや『政治と金』問題で不適切な対応をしており、いつ解散・総選挙が実施されるか不明確な状態です。働く者、生活者の立場に立った政治を実現するためには、引き続き「湯原俊二」さんを国会に送り出さなければなりません。

連合鳥取は今後も鳥取県内雇用労働者の代表として、「必ずそばにいる存在」となるべく運動を展開してまいります。

はたらくのそばで、
ともに歩む

私たち連合は、
みなさまとともに歩み続けます

「連合アクション」統一ワードロゴ



東・中・西部地域協議会&女性委員会・青年委員会定期総会を開催

東部地協「第30回定期総会」:
12月7日(木)/白兔会館



挙手で承認する代議員



参加者全員で団結してがんばろう!



土師佑太(新)議長



山下浩二(新)事務局長

中部地協「第29回定期総会」:
12月1日(金)/倉吉未来中心



松本善樹事務局長の提案に
耳を傾ける代議員のみなさん



団結してがんばろう!



佐山和明(新)議長



寺田真里(新)事務局長

西部地協「第29回定期総会」:
12月8日(金)/米子コンベンションセンター



総会の様子
(来賓のみなさん)



力強い団結がんばろう!



木村幸宏議長(再任)



藤縄和彦(新)事務局長

役職	東部地協	中部地協	西部地協
議長	土師佑太(全国農団労)	佐山和明(UAゼンセン)	木村幸宏(JP労組)
副議長	武田浩平(自治労) 林 義仁(UAゼンセン) 湖山 実(電機連合) 常藤充博(日教組) 田中義昭(JP労組) 山本昌人(電力総連)	鈴木大輔(自治労) 内藤陽介(電機連合) 梅津浩治(日教組) 前田尚希(全国農団労) 盛山 修(JAM) 川本 萌(フード連合)	野村香織(JR連合) 大西和樹(紙パ連合) 内田浩文(日教組)
事務局長	山下浩二(専従/私鉄総連)	寺田真里(専従/全労金)	藤縄和彦(専従/自治労)
事務局長次長	杉元亜紀(情報労連) 中村広明(JR連合)	圓岡恵一(JP労組)	作野征史(UAゼンセン) 伊藤 純(電力総連) 山本健一(全水道)
幹事	17人	6人	19人

青年委員会「第33回定期総会」:
11月25日(土)/中部教育会館



委員長あいさつ



会場の様子

女性委員会「第28回定期総会・学習会」:12月9日(土)/倉吉体育文化会館

【定期総会】



会場の様子



新年度役員あいさつ

【セルフケア学習会】



<講演・ストレッチ>

演題 「自分と向き合い、自分を好きになる」
～自分の身体と向き合い、
自分を知り、笑顔になろう～
講師/元なでしこジャパン
元なでしこジャパンコーチ
翔英学園はぐくむセンター長
大部由美さん(写真上)

役職名	青年委員会	女性委員会
委員長	梶川大輔(日教組)	小谷くみこ(電機連合)
副委員長	塚田尚矢(自治労) 井上貴裕(JP労組) 村中潤一(電力総連)	稲田いずみ(自治労) 桑村由香里(全労金)
事務局長	原 拓也(電機連合)	山名佐智子(UAゼンセン)
幹事	9人	9人
会計監査	2人	2人

■退任役員(議長・委員長・事務局長)のみなさん ~大変お世話になりました~



※東部地協の吉田正(前)事務局長は1月から「組合づくり相談員」として就任いただきます。
中部地協の松本善樹(前)事務局長は連合鳥取専従副事務局長として鳥取の事務所に異動となりました。

連合2024春季生活闘争方針(骨子)

(第91回中央委員会/2023.12.1より)

2024春季生活闘争スローガン:みんなで賃上げ。ステージを変えよう!



1「未来づくり春闘」で経済社会のステージ転換を着実に進めよう

「未来づくり春闘」を掲げて3回目の取り組みとなるが、これまでの2年間の取り組みの結果、20年以上にわたるデフレ・マインドが変化しつつある。2024春季生活闘争は、経済も賃金も物価も安定的に上昇する経済社会へとステージ転換をはかる正念場である。その最大のカギは、社会全体で問題意識を共有し、持続的な賃上げを実現することにある。

2. 「働くことを軸とする安心社会」に向け、格差是正と分配構造の転換に取り組もう

1990年代後半以降、国民全体の所得が下方にシフトする中で格差の拡大や貧困層の増加が進んできた。中期的に分厚い中間層の復活と働く貧困層の解消をめざす必要がある。2023春季生活闘争の成果と課題を踏まえ、規模間、雇用形態間、男女間の格差是正の前進をはかる。

賃上げ、働き方の改善、政策・制度実現の取り組みを柱とする総合労働条件改善闘争の枠組みのもと、産業状況の違いを理解し合いながら、中期的な視点を持って「人への投資」と月例賃金の改善に全力を尽くす。

3. 「みんなの春闘」を展開し、集団的労使関係を広げていこう

春季生活闘争は、労働組合の存在意義をアピールできる場でもある。組織拡大・強化の取り組みと連動し、集団的労使関係を社会に広げていく機会とする。

【基本スタンス】

<具体的な要求項目>

◆賃上げ要求

1. 月例賃金

- ①経済社会のステージ転換を着実に進めるべく、すべての働く人の生活を持続的に向上させるマクロの観点と各産業の「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組み強化を促す観点から、前年を上回る賃上げをめざすこととし、賃上げ分を3%以上、定期昇給相当分(賃金カーブ維持相当分)を含め、5%以上の賃上げをめざす。
- ②企業内のすべての労働者を対象に、生活を賄う観点と初職に就く際の観点を重視し、「時給1,200円以上」の協定化をめざす。

2. 中小組合の取り組み(規模間格差是正)

- ①賃金カーブ維持分は、労働力の価値の保障により勤労意欲を維持する役割と同時に生活水準保障でもあり、必ず確保する。賃金カーブ維持に重要な役割を果たす定期昇給制度がない組合は、人事・賃金制度の確立を視野に入れ、労使での検討委員会などを設置して協議を進めつつ、定期昇給制度の確立に取り組む。
- ②賃金カーブ維持相当分(1年・1歳間差)を確保した上で、自組合の賃金と社会横断的水準を確保するための指標を比較し、その水準の達成に必要な総額で賃金引き上げを求める。
- ③賃金実態が把握できない場合は、連合加盟平均賃金水準(約30万円)をベースとし、賃金カーブ維持分(4,500円)を確保した上で、格差是正分を含めた賃上げ分(10,500円)を含めた総額15,000円以上を目安に賃上げを求める。

3. 雇用形態間格差是正の取り組み

- ①有期・短時間・契約等で働く者の労働諸条件の向上と均等・均衡待遇確保のため、企業内のすべての労働者を対象とし、時給1,200円以上の企業内最低賃金協定の締結をめざす。
- ②有期・短時間・契約等で働く者の賃金を「働きの価値に見合った水準」へ引き上げるため、昇給ルール(制度設計:勤続年数で賃金カーブを描き、「勤続17年相当で時給1,795円・月給296,000円以上」)の導入に取り組む。

4. 男女間賃金格差および生活関連手当支給基準の是正

- ①賃金データにもとづき男女別・年齢別の賃金分布を「見える化」し、

勤続年数なども含む賃金格差につながる要因を改善する。

- ②生活関連手当(福利厚生、家族手当等)の支給における住民票上の「世帯主」要件および「証明書類の提出」の廃止を求める。

5. 初任給等の取り組み

- ①初任給について社会水準を確保する。
18歳高卒初任給の参考目標値……186,800円
- ②中途入社者賃金の「底支え」のため、年齢別最低到達水準の協定締結をめざす。

6. 一時金

- ①月例賃金の引き上げにこだわりつつ、年収確保の観点も含め水準の向上・確保をはかる。
- ②有期・短時間・契約等で働く労働者についても、均等・均衡待遇の観点から対応をはかる。

◆「すべての労働者の立場にたった働き方」の見直し

- 1. 長時間労働の是正
- 2. すべての労働者の雇用安定に向けた取り組み
- 3. 職場における均等・均衡待遇実現に向けた取り組み
- 4. 人材育成と教育訓練の充実
- 5. 60歳以降の高齢期における雇用と処遇に関する取り組み
- 6. テレワーク導入にあたっての労働組合の取り組み
- 7. 障がい者雇用に関する取り組み
- 8. 中小企業、有期・短時間・派遣等で働く労働者の退職給付制度の整備
- 9. 短時間労働者に対する社会保険の適用拡大に関する取り組み
- 10. 治療と仕事の両立の推進に関する取り組み

◆ジェンダー平等・多様性の推進

- 1. 改正女性活躍推進法および男女雇用機会均等法の周知徹底と点検活動
- 2. あらゆるハラスメント対策と差別禁止の取り組み
- 3. 育児や介護と仕事の両立に向けた環境整備
- 4. 次世代育成支援対策推進法にもとづく取り組みの推進

◆「ビジネスと人権」の取り組み

◆運動の両輪としての政策・制度実現の取り組み

2024 連合鳥取任務機構

(◎局長 ○事務局)



会 長	山口 一樹											
副 会 長	森 由香里	北畑 仁史	細砂 直	山崎 睦								
事 務 局 長	河村 正之											
副事務局長	松本 善樹	山下 浩二	寺田 真里	藤縄 和彦								
企画委員会	◎山崎 森	北畑 (オプ)松本	細砂 山下	○河村 寺田	三浦 藤縄	谷本	船岡	土師	佐山	木村		
総務局	◎河村											
組織局	◎船岡	北畑	山崎	河村	◎松本	◎山下	寺田	藤縄	三浦	箕	垣屋	岩本
生涯学習センター	(組織局と同じ)	米花	田中	後藤	福田	土師	佐山	木村	木村			
中小労働局	◎北畑	河村	◎松本	◎山下	◎寺田	藤縄	箕	垣屋	大川	山根	村尾	米花
中小共闘センター		木下 杉元										
国民運動局	◎三浦	細砂	河村	◎松本	山下	◎寺田	藤縄	谷本	山根	岩本	安藤	田中
		吉川	木下	梶川	土師	佐山	木村	大川	船岡	山根	安藤	村尾
広報・教育局	◎谷本	山崎	河村	◎松本	山下	◎寺田	藤縄	大川	船岡	山根	安藤	村尾
		飯塚	田中	吉川	杉元							
男女平等局	◎森	北畑	細砂	河村	◎松本	山下	寺田	◎藤縄	垣屋	谷本	船岡	飯塚
		伊東	後藤	吉川	木下	福田	杉元	小谷	梶川			
労働政策局	◎細砂	森	北畑	山崎	◎河村	◎松本	山下	寺田	◎藤縄	三浦	箕	大川
		岩本	村尾	米花	伊東	福田	小谷	土師	佐山	木村		
政治センター	◎山口	森	細砂	山崎	◎河村	◎松本	山下	寺田	◎藤縄	三浦	箕	大川
		垣屋	大川	谷本	安藤	飯塚	伊東	後藤	土師	佐山	木村	
青年委員会	委員長/梶川	副委員長/塚田	井上	村中	事務局長/原							
女性委員会	委員長/小谷	副委員長/稲田	桑村	事務局長/山名								
地域協議会	東部地協	議長/土師	事務局長/山下	中部地協	議長/佐山	事務局長/寺田	※各地協事務局長は連合鳥取副事務局長と兼任					
	西部地協	議長/木村	事務局長/藤縄									



湯原俊二 —緑肥の想い—

日本の政治を リセットするために、 政権交代を!



早朝の街頭にて(2023.12.19)



鳥取県交通労働局定期総会
【第30回定期総会】
(2023.12.4)



連合鳥取中部地域協議会
【第29回定期総会】
(2023.12.1)

あけましておめでとうございます。 昨年は、県議会議員選挙も含め大変お世話になりました。今年も宜しくお願い致します。

今の自民党政権は、円安物価高の原因であるアベノミクスから脱却できず、格差が拡大し国民の暮らしは厳しくなる一方です。また今年度の税収71兆円に対して、当初と補正を合わせた予算総額は128兆円、新規の借金は45兆円と、財政のタガがはずればなしで次世代の負担は増加の一途です。統一教会問題では被害者救済のための財産保全もできず、派閥の資金パーティーでの裏金問題、政治とカネの問題も自民党の体質そのものです。改めて日本の政治をリセットするためには、政権交代が必要です。

※インターネットで [衆議院TV](#) → [湯原俊二](#) を検索ください。
過去の発言風景がご覧になれます。

湯原さんのホームページもご覧ください



QRコードからも
つながります

(街の
電気屋さん)



急激な物価上昇に国民が戸惑い、明日の暮らしにさえ不安を募らせている最中であって、巷では「政治と金」の問題がまたしてもメディアを賑わせている。「政治にはお金がかかる」とよくいわれるが、2023年の政党交付金は9政党に対し、315億円余りが支払われ、自民党には約160億円が交付されている。自民党議員は衆参合わせ約370人であることから、単純計算で一人当たり4,000万円超支払われていることになる。そもそも国会議員には給与約2,000万円に加え、文書通信交通滞在費や立法事務費、秘書給与など約4,000万円が支給されており、総額で6,000万円以上となる▼言わずもがな、政党交付金も議員の給与も、すべて国民から徴収した税金である。日本をより良い国にするため、国民の生活を豊かになるためであればまだ理解はできるが、果たしてどうだろうか？ 国民が政治に無関心である以上、この状況は続くだろう。今こそ、声を上げ、行動する時ではないだろうか。

とんがりっくろや

